

ホームID	ホーム名		法 人 名			評 価 日		
2820	ライフ&シニアハウス日暮里		株式会社 生活科学運営			H28.11.14		
評価機関	特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク					H28.12.14		
評価結果								
スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	B	B	6.2.4	A	A
1.2.1	A	A	2.3.8	非該当	非該当	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	B	6.2.9	A	A
1.3.3	A	A	2.4.2	A	A	6.3.1	B	A
1.4.1	B	A	2.4.3	A	A	6.3.2	A	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	C	C
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	B	B	3.1.1	A	A	7.2.1	A	A
1.4.6	B	A	3.1.2	A	A	7.3.1	A	B
1.4.7	A	A	3.1.3	B	B	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	A	非該当	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	B	B
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	A	A	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	A	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	B	7.6.1	A	A
2.2.10	A	B	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	B	5.2.5	A	A	7.6.3	A	B
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	B	B	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A				

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所 見
2-3-3	入居者へのサービスは、各種アンケートや委員会によるさまざまな企画でその要望を把握し、質向上・改善を目指している。また、食のサービスは、食向上委員会によるアンケートにより満足度について調査・分析し、食の充実を図っている。さらに、アクティブ委員会は、入居者の希望に基づき、併設している認証保育所の子どもへプレゼントを作成する等、意欲をもって入居者が生活できるような取り組みで、サービスの質向上に力を入れている。
3-1-6	1階に多目的室があり、運動会、コンサート、映画鑑賞会、クリスマス会、日々の体操など入居者のために活用されている。また、併設している認証保育所が、雨の日の室内活動、卒園式にも利用していて、入居者は子どもとの関わりを持ち、運動会、卒園式等の行事に参加する他、自主的に子どもに紙芝居や絵本の読み聞かせを行っている。日々の成長を見ながら子どもに関わることができるという貴重な体験ができる環境がある。
6-1-1	今年度より、入居者の機能維持には職種間の連携が不可欠であるとして、看護職員・介護職員・ドクターの三者が集まり、カンファレンスを実施している。医療と介護が同じ知識と同じケアの方向性を持って、入居者に対応できるよう、観察のポイント・日頃見慣れないケアのレクチャーなどを共有している。また、入居者にあった支援が提供されるよう、家族にも、共有した入居者の心身状況をできるだけ詳細に説明し、理解を深めている。
4-2-2	アクティビティは、アクティブ委員会が中心となって計画を立て、評価・反省を行い、次回に反映している。さらに、介護予防体操委員会は、独自の取り組みとして、毎日のラジオ体操に加え、すずらん・にちにち・ロコモ体操・筋力トレーニングの4種の選べる介護予防体操プログラムを実施しており、入居者の希望と状況に合わせて参加できる。一人ひとりにあったプログラムを提供することで、排泄の自立につながるなど効果が確認できている。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール	所 見
1-4-1	会社は6段階のキャリアステップを定義し、それぞれの果たすべき役割を明示して、人事考課制度を運用し、昇格・降格の条件も整えている。ハウス長は、半期に1回職員面接を行い目標や評価について話し合う機会を持っている。人材育成計画は、年間の研修計画を中心に進められているが、キャリア別、個人別の育成計画の策定までには至っていない。育成計画のさらなるステップアップを目指して、個人別育成計画の策定が求められる。
1-4-5	ハウスの介護体制は、特定施設入居契約者1名に対し、職員を約0.83人配し、手厚いものとなっている。しかし、入居者の高齢化に伴い、職員の仕事量は増える傾向にあり、就業状況への管理が必要かつ重要なものとなっている。ハウス長は時間外勤務について時間・勤務理由を把握して、過剰な勤務が起こらないよう配慮しており、今後は、勤務シフトへの有給休暇の組み入れ等、職員の就業状況改善につなげるさらなる取り組みが期待される。
2-4-1	入居者や家族等からの職員への金品授受は、厳禁の姿勢で臨んでいる。会社は企業倫理規程の禁止事項として、金品の受け取りを厳禁とし、その姿勢を明確にしている。しかし、金品の授受をせざるを得なかった事例もあり、ハウスはその際の上司への報告や、贈与先への断り・返却等の処理も職員へ伝えている。現在、明文化されたルールはなく、受け取り時に処理に迷うケースも考えられるため、金品授受に関する手順書の策定が望まれる。
7-6-3	入居者の薬は、健康相談室で管理し、配薬は看護職員が、与薬は介護職員と看護職員が行っている。また、誤薬防止のため、介護職員と看護職員は連携を図り、服薬チェック表を活用している。現在、フロアごと作成の介護職員用「業務一覧表」に、服薬の手順も一部記録がされているが、ハウス独自の与薬時の二重チェック、服薬チェック表の使用等業務手順をまとめたものは作成されていないため、手順を集約したマニュアル作成が求められる。